

小学校プログラミング教育実施レポート

令和2年度から必修化された小学校プログラミング教育の実施の様子を紹介するものです。
未来の学びコンソーシアムにて実施内容の精査を行うものではありません。

学習活動名	委員会活動・児童有志「コンピュータサイエンス教育週間の取り組み」
学年	小学校第5・6学年
目標	児童主体のコンピュータサイエンスとの触れ合いの時間を作る。
教材タイプ	ビジュアル言語
使用教材	Hour of code、Viscuit
環境	パソコン教室ノート型パソコン（校内40台）
都道府県	神奈川県
実施校	横須賀市立浦賀小学校
学習活動の概要・児童の様子(プログラミングの活動を中心に記載ください。)	<p>① 毎年12月に世界で行われる「コンピュータサイエンス教育週間」の期間中に、普段休み時間に開放していないコンピュータ室を児童に開放し、プログラミング教材を体験できる機会を作った。</p> <p>② 前年度も6年生の総合的な学習の時間の単元として取り組んでいた企画を、本年度は『情報委員会』および5年生有志で行った。プログラミング教材に慣れた5年生が”メンター”として児童に声掛けを行い、情報委員会児童が来た児童の名簿を作成し、認定証などを渡す活動を行った。</p>   <p>③ 前年度は3年生以上であったが、本年度は全校児童を対象とした。児童と相談をして、2年生以上は『Hour of code』、1年生は『viscuit』を中心にして活動を行った。</p> <p>④ 1週間で、全校325名 78.7%の参加率となった。</p>
成果と課題	<ul style="list-style-type: none">・2年間続けて開催することで、児童も自分たち自身が作り上げている実感をもった。・児童相互の伝えあい、学び合いの姿が遊びの中から見られた。・プログラミング教育の様子が見えなかった教員も、子どもたちの反応を見て前向きにとらえることもできた。・本年度から休み時間にコンピュータ室を開放し、情報委員会がメンターとしてローテーションを組む活動が取り入れられる。